

# わが

## 「市民の笑顔あふれる白石」を 目指して

### 城下町の歴史と 伝統が息づくまち白石

蔵王連峰のふもとに広がる白石市は、宮城県南部、福島県との県境に位置し、清流白石川が市内を流れ、掘り割りや武家屋敷が今も残る静かな城下町です。

東北新幹線「白石蔵王駅」や東北自動車道白石ICなど交通インフラが整備され、南東北の県庁所在地である仙台市・福島市・山形市



油を使わず胃にやさしい伝承400年の「白石温麺」

から1時間圏内にあることから、交通の要衝となっています。

本市の伝統的特産品に「温麺」<sup>ういめん</sup>「和紙」「葛」があり、古くから「白石三白」と呼ばれていました。特に、白石温麺は油を使わない胃にやさしい麺として、400年以上続く本市の主要な地場産業となっています。また、過去に食味日本一を獲得した「白石産ササニシキ」の復活プロジェクトや、「白」にちなんだ「白石三白野菜」といった農産物のブランド化にも取り組んでいます。

### 時代の節目に 歴史の表舞台へ 続日本100名城 「白石城」

白石城は、仙台藩伊達家の重臣片倉家が約260年間居城した城

です。戊辰戦争後に解体されましたが、1995年、江戸後期の天守閣と大手門を忠実に復元しました。近年は「歴女」と呼ばれる、女性の歴史愛好家の皆さんをはじめ、人気ゲームソフトに城主片倉小十郎が登場することから、若い世代からも注目されています。また、2017年4月には日本城郭協会から「続日本100名城」に選定され、多くの城郭愛好家が訪れています。毎年10月上旬に白石城本丸で開催される「鬼小十郎まつり」は、大坂夏の陣における二代城主片倉小十郎重長の活躍と真田幸村公の息女をめぐる秘話を、公募によるエキストラと地元の高校生などが参加してストーリー仕立てで再現し、多くの観光客でにぎわっています。



大坂夏の陣・真田幸村軍との決戦を再現した「鬼小十郎まつり」

本年は戊辰戦争から150年の節目の年。幕末の白石城では、朝敵とされた会津藩の赦免を新政府に嘆願するための諸藩による会議が行われました。嘆願却下後、会議は「奥羽越列藩同盟」に発展し、軍議所や奥羽越公議府と呼ばれる重要な機関が白石城に置かれました。市では、市民の皆さんとともに歴史を再認識し、後世に受け継ごうと「しろいし慕心プロジェクト

ト」と銘打ち、史跡や展示物の整備、関連イベントなどを実施しています。

## 地方創生施策を積極的に推進

本市では、地域経済の発展や活力ある地域社会の形成を図り、少子化や人口減少を克服しようと、さまざまな地方創生事業に取り組んでいます。「教育環境の整備」「子育て支援」「移住・定住の促進」「雇用の創出」などの分野で、独自性を持った事業を多面的に推進するとともに、「農産物ブランド化・



本年8月にオープンした子育て支援・多世代交流複合施設「こじゅうろうキッズランド」

六次産業化推進」「伝統産業の継承」「歴史・自然・文化等白石の魅力向上」など、国の交付金も活用しながら市民の皆さんとともに積極的に事業を展開しています。

特に、にぎわいの創出や地方創生の「核」となる事業として、東北自動車道白石IC近くの国道4号沿いの官民遊休施設を再活用し、民間事業者と協力しながら農工商連携を核としたにぎわい交流施設「しろいし Sun Park(サンパーク)」を整備しています。

本年7月には「六次産業化加工施設」、8月には子育て支援・多世代交流複合施設「こじゅうろうキッズランド」がオープンしました。キッズランドは、大型遊具を設置した世代別の遊戯コーナーや絵本コーナーなどを設けており、子育て・孫育て家族が安心して遊べる屋内遊び場です。さらに、2019年以降も「農産物等販売施設」「地元食材活用レストラン」などが順次オープンする予定です。

## 「住みたいまち・住み続けたいまち」に向けて

施政方針の理念に「住みたいま

ち・住み続けたいまち」「市民の笑顔あふれる白石」の実現を掲げています。本年10月からは、新たな公共交通手段の可能性を模索するため、買い物や通院などの利便性を図るための「市民バス中心市街地循環便」の試験運行を開始しました。

また、本市は従来から子どもたちの新体操競技が盛んで、東京オリンピック・パラリンピックに向けた

## プロフィール

- ◆ 面積 286.4 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万4333人
- ◆ 世帯数 1万4227世帯

〔将来都市像〕人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市

〔まちの特徴〕雄大な蔵王連峰のふもとに清流白石川が流れ、城下町の歴史と伝統が息づく自然豊かなまち

〔特産品〕白石温麺、白石和紙、弥治郎こけし、米、日本酒、干し柿(ころ



白石市長  
山田裕一



柿)、味噌、白石三白野菜  
〔観光〕白石城・武家屋敷、みやぎ蔵王白石スキー場、弥治郎こけし村、材木岩公園、宮城蔵王キツネ村  
〔イベント〕鬼小十郎まつり、全日本こけしコンクール、しろいし蔵王高原マラソン大会、白石城桜まつり、白石市民春まつり、白石夏まつり、白石市農業祭

けて2017年7月、ベラルーシ共和国のホストタウンに登録されました。新体操ナショナルチームの事前合宿受け入れや演技発表会の開催など、世界トップレベルの演技にじかに触れ、国際交流を深める機会も積極的に設けています。

こうしたさまざまな事業に、市民の皆さんの力をお借りしながら真心込めて、積極的に取り組んでいきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 古い歴史と豊かな自然を生かした 地域づくりを推進

### ふるさとを伝承するまち

「地域のことを知れば知るほど面白いし、ここに生まれ育って良かったと思います」

本年10月に開かれた「第1回ふるさと学習サミット」で発表を終えた小学生の言葉です。

ふるさとに生まれ、暮らし、ここではぐくまれた子どもたちは、その土地の風土や人々のまなざしの中で見守られ、育ってきたことに気づくでしょう。成長した彼らは、いつしか世界に飛び出し、日本を牽引し、地域社会の屋台骨を支え、地球のどこにいても頼られる存在となるはずです。

3年前から、石岡市では小・中学生を対象とした「ふるさと学習」が始まりました。これは子どもたちが地域を探求し、歴史や伝統、

文化、産業、慣習、伝説などに触れ、先人の郷土愛や地域社会の発展にかけた思いを知り、自分の原点を理解する取り組みです。そのことよって、子どもたちの心

地域への誇りと愛情が育ち、たとえ火星に移り住んでも、帰るふるさととは石岡だと思ひ描くことでしょう。

この取り組みの手始めとして、府中塾と山根塾という二つの市民グループが題材を調査し、それを元に教師による編集チームが2年掛かりで石岡オリジナルの教本を制作しました。

こうして「ふるさと学習」のカリキュラムがスタートしました。小学生から中学生までの9年間で郷土を学び、地域への提言をゴールとしています。さて、そのふるさと石岡の姿、

わがまち石岡市について触れてみたいと思います。

### 豊かな自然環境と 里山景観

本市は、茨城県のほぼ中央に位置し、筑波山系の山々に囲まれて、恋瀬川などの美しい水辺が霞ヶ浦まで広がっています。温暖な気候と風土を生かしてさまざまな果樹が栽培され、筑波山系の水の恵みを受けた酒どころとして伝統の味を伝えていきます。

奈良時代には国府が置かれ、常陸国の政治と文化の中心地として栄え、国分寺跡・尼寺跡などの残る千三百年の歴史を有するまちです。国分寺の瓦類の製造をしていた瓦塚窯跡や、東日本第2位の大きさを誇る前方後円墳「舟塚山古墳」も見どころの一つです。

### 個性の輝くまちに

本市の数ある行事の中で最もにぎわうのが、9月中旬に行われる「石岡のおまつり」です。茨城県を代表するこのお祭りは、常陸國總社宮の例大祭として、近世以降に発展してきました。豪華な山車や重厚な太鼓の響きに舞う幌獅子が合わせて40台を超えて練り歩きまは、圧巻です。今年は3日間で国内外から計48万8千人の観光客を迎えました。



看板建築が並ぶ中心市街地（まちづくりファンドによる景観行政の推進）

また、中心市街地には昭和レトロの街並み「看板建築」が並びます。2017年7月に、「全国看板建築サミット」を開催し、筑波大学や全国の看板建築を有する自治体の参加の下、全国に本市の看板建築の特徴や魅力を発信しました。この保存に向けて、「まちづくりファンド」の基金を立ち上げ、看板建築の保存と街並みの整備を行い、中心市街地の活性化を目指しています。

## 創立130周年を迎える図書館

1889年(明治22年)創立の本市の中央図書館は、2019年に130周年を迎えます。国立国会図書館より8年も早く、その時代に図書館を創立した先人の精神を受け継ぎ、同年10月に130周年事業を開催します。

2017年4月に「こども図書館本の森」をオープンしました。子ども専用の独立した図書館は、茨城県内初の取り組みで、館内は木を使用して温もりのある空間とし、リラクセスして過ごせる「おはなしの部屋」も用意しました。

## りんりんタウン構想

八郷地区は、茅葺民家が点在する里山景観が広がっています。のどかな風景を多くのサイクリストが楽しんでいきます。

現在、本市では、自転車を活用した「りんりんタウン構想」に取り組んでいます。サイクルツーリズムによる観光振興だけでなく、普段の生活の中に自転車を取り入れ、ハード・ソフト両面からサイクリング環境の向上を目指しています。

## オンラインワンのふるさとへ

このように、本市は古い歴史と豊かな自然を生かした地域づくり



関川小学校でのふるさと学習の一幕

を進めています。特に次の世代へふるさとの素晴らしさが伝承できるように、心掛けていきます。市政運営は多岐にわたる視点からの展開が必要ですが、これは一つの切り口からのアプローチです。最後に、一枚の写真(左上)を紹介いたします。

## プロフィール

- ◆ 面積 215.53km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 7万5454人
- ◆ 世帯数 3万803世帯

〔将来都市像〕誰もがいきいきと暮らし輝くまち いしおか

〔まちの特徴〕豊かな自然の恩恵を受けながら、奈良時代には常陸国の国府として栄え、千三百年の歴史を有するまち

〔市町村合併〕2005年10月1日 石岡市、八郷町との新設合併

〔特産品〕日本酒、味噌、小菊、果物(梨、柿、いちじく、ぶどう)、バラ、納豆、杉線香



石岡市長  
今泉文彦



ふるさと学習サミットを終え、高い評価を受けた関川小学校で研究成果発表が行われました。児童たちが、共同制作した大人形ダイラポッチを囲んで談笑しています。笑顔から、ふるさとが楽しく伝承されていることが伝わってきます。

〔観光〕看板建築群(レトロな街並み)、常陸国分寺、常陸国分尼寺跡、舟塚山古墳、善光寺楼門、常陸國總社宮、茨城県フラワーパーク、常陸風土記の丘、朝日里山学校、ゆりの郷(温泉)

〔イベント〕茨城県フラワーパークばらまつり(5月)、柿岡のおまつり(7月)、石岡のおまつり(9月)、真家みたまおどり(8月)、いしおかトレイルラン大会(4月)、石岡市民の日(10月)、茨城県フラワーパークイルミネーション(11月)、石岡つくばねマラソン(2月)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 「羽島の今を変える」から 「羽島の未来を創る」へ

県内随一の多様な市職員  
新規採用枠と全国最先端  
の働き方改革を推進

岐阜労働局のデータによると、  
本年8月時点における岐阜地域有  
効求人倍率（一般）は2・19となり  
ました。岐阜地域では、近年、人  
手不足を背景とした「売り手市場」  
の傾向が強まっています。また、  
民間における求人倍率の上昇が、  
ここ数年来、全国の公務員人材確  
保に影響を及ぼしています。

本市では、その状況にいち早く  
対応するため、市職員採用試験で  
従来型の一般事務の採用試験に加  
え、高校卒業程度の技術系職員、  
35〜44歳の保健師および自己推薦  
によるスポーツ・芸術分野などで  
優れた成果を収めた人材の採用を  
進めてきました。本年度からは、

一般事務の試験区分をさらに拡  
充。31〜39歳の方が受験できる区  
分を設けるとともに、一般事務部  
門においても高校卒業程度の試験  
区分を新設しました。

試験内容についても、従来の公  
務員試験（教養・専門分野）を廃止。  
新たに、民間企業などで実施され  
ている基礎能力試験を導入しまし  
た。公務員試験対策が不要になる  
ことが一因となり、申込者数も  
2017年度と比べて6倍に増加  
しました。

また本市では、職員の仕事と子  
育ての両立を支援するため、勤務  
時間を短縮する部分休業制度の対  
象となる職員の子どもの年齢を  
「小学校就学前」から「小学校卒業  
まで」まで拡充する全国最先端の制度を  
設定。2019年度から運用を始  
めます。この制度を運用すること

で、市職員のワークライフ balan  
スが向上するだけでなく、子育て  
中の女性も新たに市職員として就  
職しやすくなるとのご意見も、応  
募者の多数からいただいています。

## 市民とともに「学び・考え・ 実践する羽島市政」 「事後報告型」から「納得型」 の行政運営へ転換

わが国は、少子高齢化の進展に  
よる社会構造の変化への的確な対  
応に迫られています。このような  
中、地方行政には、情報を正確に  
市民の皆さま方にお伝えし、バラ  
ンスの取れた行政運営を推進する  
ことが求められます。

2017年から本市では、「コ  
ミュニティバス」「ごみ減量化」「公  
共施設のあり方」「財政」「子育て」  
といった市政が抱える重要課題に

ついて、各地域でタウンミーティン  
グを開催してきました。2017  
年には、平日の夜間、市内11のコ  
ミュニティセンターで66回、休日  
には市文化センターで3回、出席  
された方々との意見交換を行った  
ところです。本年に入ってから、  
11月から「コミュニティスクール」  
「地域防災・減災活動」をテーマに  
タウンミーティングを開催中です。

一方、行政改革の推進を図るた  
め、2017年に引き続き本年9  
月に事業仕分けを開きました。仕  
分け人からの厳しい指摘もいただ  
きながら、最適な事業の在り方を  
公開の場で議論するとともに、市



羽島市事業仕分けを開催

民目線での行政チェックを行って  
もらいました。

また、一般市である本市には実  
施義務のない包括外部監査制度も  
導入し、専門機関による行政事務  
の点検も実施しました。2016  
年には、同監査の報告書の活用度  
で、全国市民オンブズマン連絡会  
議から「措置模範賞」を受賞して  
います。

情報が氾濫はんらんしている現代です  
が、市民の皆さまに行政の実態が  
正しく伝達されているかには、今  
なお懸念があります。常に市政執  
行の振り返りに努めながら、市民  
との見えないハードルを取り除く  
ため、今後も「事後報告型」から  
「納得型」の行政運営にまい進し  
ていきます。

## 東京オリ・パラの ホストタウン事業 スリランカへ 陸上指導者を派遣

本市では10年以上前から、スリ  
ランカと市民団体を仲介した交流  
活動が続けられてきました。その  
一環として、市からも消防自動車  
などを同国へ寄贈したところでは  
この縁をきっかけとし、国に東京

オリ・パラのホストタウン登録申請  
をしたところ、本市の特色ある交  
流計画が認められ、2017年7  
月に、スリランカを相手国とした  
ホストタウンに認定・登録されまし  
た。また、本年6月には、同国のス  
ポーツ担当大臣であるファイザー・  
ムスタファ氏が羽島市役所を訪問  
され、交流盟約を締結しました。

東京オリ・パラに向けた機運を  
醸成するため、市ではホストタウ  
ン実行委員会を組織化し、啓発事  
業を実施しています。6月に岐阜  
市で開催された第18回アジアジュ  
ニア陸上競技選手権大会では、本  
市に宿泊されたスリランカ選手団  
を歓迎するパーティーを開催する  
など、若い世代を中心とした友好  
の絆きずなを深めています。  
また、スリランカ選手の競技力



スリランカと交流盟約を締結

向上のため、日本から陸上競技ほ  
かの専門指導者を派遣する提案を  
同国のスポーツ省に伝えました。  
ムスタファ大臣からは「日本の優  
れた指導者による選手育成は大臣  
としてもありがたく、誇りに思  
う。ぜひとも進めてほしい」との  
回答をいただきました。今後は、  
指導者の派遣に加え、インター  
ネットを介したフォーム矯正、体

調管理・メンタルチェックなどの  
実施方法についても、事業の趣旨  
にご理解いただいた大学の協力を  
いただきながら進めていきたいと  
考えています。  
さらに、東京オリ・パラ後は、ス  
リランカからの地元大学への留学  
生の招聘しょうへい、わが国への就職協定な  
ども視野に入れ、事業を推進して  
まいりたいと考えています。

## プロフィール

- ◆ 面積 53・66km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万7906人
- ◆ 世帯数 2万6178世帯

〔将来都市像〕心安らく、幸せ実感都  
市はしま

〔まちの特徴〕木曾川、長良川の二大  
河川に囲まれた自然豊かな立地であり  
ながら、新幹線駅と高速道路インター  
チェンジを併せ持つ広域交通の拠点  
都市

〔特産品〕尾州産地の毛織物・ニット  
製造、ハツシモ、レンコン、川魚(ウ



羽島市長  
松井 聡



ナギ・ナマス・コイ) 料理、平凡の銘  
酒・千代菊

〔観光〕円空上人誕生の地、美濃竹鼻  
まつりの山車、羽島市発祥の美濃菊、  
竹鼻別院のフジ、永田佐吉翁建立の佐  
吉大仏、平方勢獅子

〔イベント〕美濃竹鼻まつり・ふじま  
つり、ぎふ羽島駅前フェス、濃尾大花  
火、羽島美濃菊展、木曾川・長良川背  
割堤さくらまつり、いちのえだ田園フ  
ラワーフェスタ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、  
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## しあわせあふれるひと・もの交流拠点都市 やつしろ 魅力あふれる都市への飛躍を目指して

山・川・海  
そして広大な平野と  
豊かな自然に恵まれた  
田園工業都市

八代市は、県都・熊本市の南約40kmに位置し、市域は東西約50km、南北約30kmにわたり、約681km<sup>2</sup>もの面積を有し、全国有数の農業生産地、県内有数の工業都市として発展してきました。

交通アクセス面では、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道の結節点であり、また、九州新幹線・JR鹿児島本線・肥薩おれんじ鉄道といった交通インフラも充実しています。さらには、八代港が2010年に重点港湾に指定され、八代海に面した海の玄関口として、近年、特に整備が進み、物流はもとよりインバウンドとい

た人流の拠点としても重要な役割を担っています。加えて九州のほぼ中央に位置するという地の利からも、陸・海路の交通の要衝となっています。

### 農業のさらなる振興

本市の活性化には、地域内における産業の構成割合が国や県の平均と比較して高い一次産業の振興が不可欠だと考えており、より稼げる農林水産業を目指して取り組みを行っています。特に、基幹産業である農業については、日本一の生産量を誇る冬トマトやイグサ、世界最大の柑橘類「晚白柚」をはじめ、プロッコリーなどの露地野菜の栽培が盛んです。本市では、2014年4月には営農支援室を設置し、就農・営農相談などにより担い手の育成に取り組むこ



全国一の生産量を誇る八代産の「イグサ」

とで、新規就農者が毎年40名程度誕生しています。また、農業生産額も毎年増加しており、担い手一人一人の経営力が向上しています。引き続き、法人化や集落営農組織の立ち上げなど、規模拡大を行う意欲的な農家に対して、施設整備や機械の導入などを支援していく考えです。今後もさらに、農

産物の六次産業化の推進を含め、稼げる農業を目指した取り組みを進めていきます。

### インバウンド需要を 取り込む体制の構築

近年、アジアを中心とした外国人観光客の増加には著しいものがあります。八代港は2017年に全国六港湾の一つとして「国際旅客船拠点形成港湾」に指定されており、2020年には、国土交通省、熊本県、そして船会社（RCL）により、「クルーズ船専用岸壁」150台規模の「大型バス駐車場」、商業施設やCIQ機能を持った「旅客ターミナル」などが整備される計画となっています。これにより、貨物船とクルーズ船の岸壁が分離され、効率よく多くの船が入港できるようになり、クルーズ客の大幅な増加が見込まれています。

このため、外国人観光客の皆さまが本市で心から楽しんでいただくことを目指して「八代おもて



ユネスコ無形文化遺産 八代妙見祭「笠鉾（かさぼこ）」

なしプラン」を策定し、一層の歓迎機運の醸成、外国人観光客の皆さまにとつての利便性の向上、観光商品の開発や観光施設の整備といった観光コンテンツの充実など、官民一体となり受け入れ環境の整備に取り組んでいるところであります。

さらに、ユネスコ無形文化遺産に登録された「八代妙見祭」、西日本では唯一の花火競技大会である「やつしろ全国花火競技大会」をはじめとする各種イベントや、

2019年に開催される「女子ハンドボール世界選手権大会」などの大規模スポーツ大会、また、開湯600年を誇る「日奈久温泉」といった観光資源のほか、本市の歴史・文化の情報発信拠点として2021年に完成予定の「八代民俗伝統芸能伝承館(仮称)」なども、外国人観光客の皆さまに大変喜ばれるものと期待しています。このように、ハード・ソフト両面から新たなにぎわいの創出に取り組んでいるところであります。

### ふるさと八代を 未来へつなぐために

本市におきましても、多くの自治体同様、少子高齢化による人口減少や、多様化する住民ニーズへの対応など、多くの課題を抱えています。その一方で、外国人観光客や外国人技能実習生の増加に伴い、大きな国際化の波が押し寄せてきており、今後、世界に向けた観光・経済戦略の展開、国際交流の拡充、国際感覚豊かな人づくりの推進、多文化共生社会の推進など、国際化に対応すべくさまざまな取り組みを、官民一体となった「チーム八代」として推進してい

くこととしています。

一昨年の「平成28年熊本地震」から約2年半がたちましたが、本市においても復興は、まだ道半ばです。さらに、近年、全国各地で前例のないほどの大規模な災害が発生しており、防災対策のさらなる強化は喫緊の課題であると認識しています。

誰もが安全・安心で、郷土への

### プロフィール

- ◆ 面積 681.36 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 12万8115人
- ◆ 世帯数 5万6087世帯

〔将来都市像〕しあわせあふれるひと・もの交流拠点都市、やつしろ

〔まちの特徴〕九州のほぼ中央に位置し、山・川・海そして広大な平野と豊かな自然に恵まれた田園工業都市

〔市町村合併〕2005年8月1日、八代市と八代郡内の坂本村、千丁町、鏡町、東陽村、泉村の1市、2町、3村が合併



八代市長  
中村博生



〔特産品〕トマト、晩白柚、イグサ、生姜、メロン

〔観光〕日奈久温泉(開湯600年の歴史を誇る)、五家荘(平家伝説の里)、八代城跡(国指定史跡)

〔イベント〕九州三大祭八代妙見祭、九州国際スリッパコンテスト、やつしろ全国花火競技大会、みなと八代フェスティバル

誇りと将来への夢を持って住み続けることができる「まちづくり」を進めるため、本年3月に「第2次八代市総合計画」を策定しました。その目指すべき将来像として掲げた「しあわせあふれるひと・もの交流拠点都市、やつしろ」の実現に向け、これからもスピード感を持って全力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。